

製造業安全対策に関するトップ会談 の開催について

平成29年10月

開催概要

- 平成29年9月28日（木）、経済産業省の本館地下講堂にて「製造業安全対策に関するトップ会談」を開催。約320名が参加。

テーマ；安全対策において経営層に期待される役割と対応

プログラム

1. 挨拶 牧原秀樹 厚生労働副大臣
2. 基調講演 石村和彦 旭硝子(株)代表取締役会長

3. 企業経営者による会談

- ・ 進藤孝生 （一社）日本鉄鋼連盟会長
- ・ 石飛 修 （一社）日本化学工業協会会長
- ・ 鈴木邦夫 日本製紙連合会副会長
- ・ 石村和彦 旭硝子(株)代表取締役会長
- ・ 八牧暢行 中央労働災害防止協会理事長
- ・ 向殿政男 明治大学名誉教授

4. 挨拶 世耕弘成 経済産業大臣
寺畑雅史 製造業安全対策官民協議会会長



座談会の様子



牧原副大臣による冒頭挨拶



世耕大臣による終了挨拶

基調講演

- 旭硝子(株)代表取締役の石村和彦会長から、「安全なくして生産なし」をテーマに基調講演。

<主な内容>

- 安全は一番、二番と比べるものではないと考え、当社では「安全第一」という言葉は使わない。
- 人の意識レベル向上だけでは事故防止は限界。1992年から設備のリスクを下げる取組を実施。繰り返し対策を実施したことで安全が向上。同時に、機械の一時停止の回数も減少し、稼働率が向上し生産性も向上。
- セーフティアセッサ資格制度を導入し、設備の使用者が設備設計者と機械安全に関するコミュニケーションが出来るような知識、能力を身につけるように育成。
- 経営トップによる安全ポスターによる啓蒙や、「安全なくして生産なし」と言い続けることにより、トップの意識を伝え続けている。
- 海外での安全対策でも意識レベルの改革のために、現場の作業員や通訳に対して「言い続けること」が重要。



石村会長



トップ会議の様子

経営トップによる会談

- 経営トップが忌憚のない意見交換を実施。共通課題は多くあるが、対策は各業界毎に相違。その意味で異業種間の対話は極めて重要。他方では、他産業に学ぶためには共通項も必要。IoTやビッグデータの活用など新たな技術導入を活用すべきといった意見があった。

セッション1：製造現場における環境変化

- ①ベテランの人手不足、②経験を学ぶ場の減少、③外注先の安全管理、④ブラックボックス（自動）化による設備内部の仕組みが不明瞭といった共通課題が多い。
- 作業者のリスク認識や気づきが経営層まで上がる風通しの良さなど、組織的なマネジメントシステムの構築が重要。

セッション2：経営理念と安全対策

- **【製鉄業】** リーダーシップの発揮（安全基本方針・社長メッセージ等）とボトムアップ（安全衛生小集団活動等）の両方の取組を実施するとともに、機械安全化に関する予算化なども実施。
- **【化学業】** 企業間での事故情報の共有化や事故説明DVD教材等を活用した安全教育により、安全基盤を確立し、安全文化を浸透。安全基盤や安全文化に対して継続的に外部監査・評価を導入。
- **【製紙業】** 安全衛生大会等で、災害事例研究など業界として共通の知識を共有。労働組合へも災害事例の水平展開や安全活動への共同参画などを働きかけ。
- 技術伝承の観点で、他社見学等でベテランの知恵の継承や他者との知識共有ができるような仕組み作りを実施。

会談を踏まえた声明文の策定

- 会談の討議内容を踏まえ、司会の向殿・明治大学名誉教授が取りまとめとして「声明文」を読み上げた。

(1) 内容

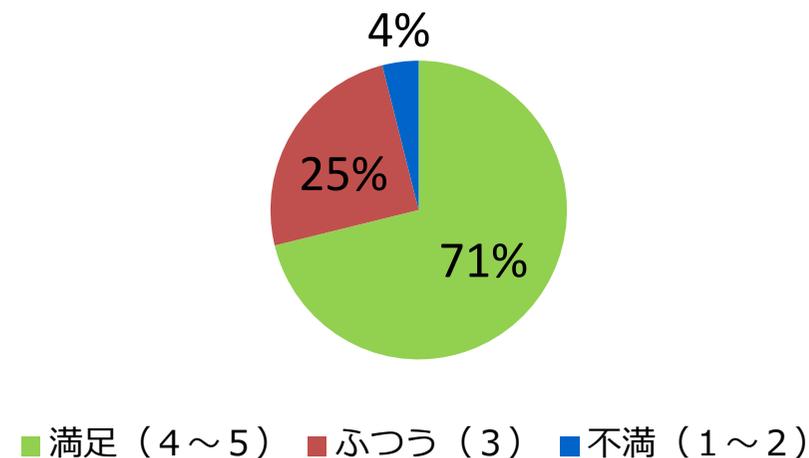
各団体の会員企業は、次の4つの経営理念に従って安全対策を強化できるよう、取組を行う。

- ①経営層のリーダーシップ
- ②安全への投資の促進
- ③協力会社を含めた人材育成や安全教育の拡充
- ④課題の抽出、検討及び業界内外との共有

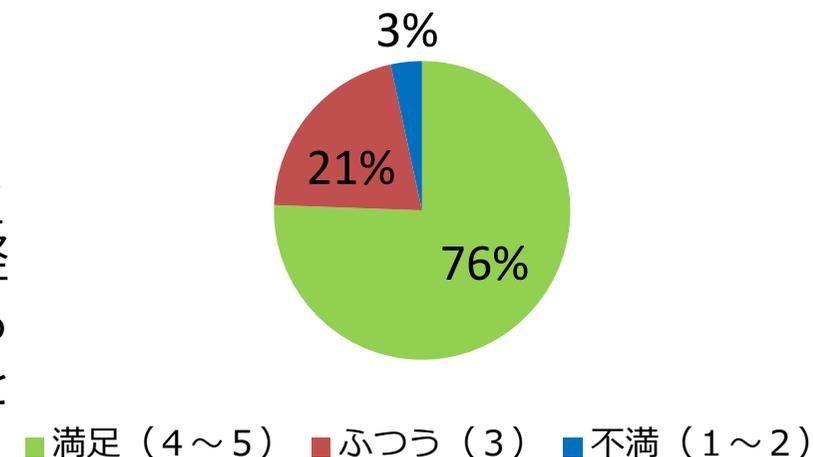
(2) 今後の進め方（審議事項）

- ① 協議会構成員10団体で審議し、声明文に賛同。
- ② その上で、11月9日の「全国産業安全衛生大会」において、大会宣言の形でその内容を公表し、声明文の経営理念が達成され、更なる安全対策の強化が図られるための方策（賛同する企業の通知制度の新設など）を推進する。

満足度



内容理解と役立ち度



製造業安全対策に関するトップ会談

声明文

平成29年9月28日

私たちは、「一人ひとりカケガエノナイひと」という人間尊重の基本理念の下、会員企業が以下の4つの経営理念に従って安全対策を強化できるよう、取組を行います。

- 一、経営層がリーダーシップを発揮しつつ、安全担当や製造担当と接触し、かつ、常に現場の声を反映できるような体制の強化
- 二、設備の老朽化等の厳しい現状がある一方、技術革新を生かした新たな取組も進んでいることを踏まえた、安全への投資の促進
- 三、ベテラン職員の減少、業務アウトソーシングの増加などの環境変化を踏まえた、階層別、協力会社を含めた人材育成や安全教育の拡充
- 四、重点的に取り組むべき課題を抽出し、その原因・対策などを検討し、検討結果を業界内外に共有

また、これらの取組を効果的に進めるため、引き続き製造業安全対策官民協議会に積極的に参画し、その成果の内外への普及に努めます。

製造業安全対策に関するトップ会談－開催概要

平成 29 年 10 月
製造業安全対策官民協議会

1. 日時 平成29年9月28日（木）13：30～15：30
2. 場所 経済産業省本館地下2階講堂
3. 参加者 約320名（製造業175名、マスコミ12名、団体98名、その他32名）
4. プログラム



会場風景

- (1) 開会挨拶 牧原秀樹 厚生労働副大臣
 - ・ 製造業団体のトップが参画し、多数の参加者を得てトップ会談を開催に感謝。安全対策を安全文化にまで高めるためには、企業や業界のトップのイニシアチブが不可欠。
 - ・ 労働災害を撲滅するために、トップのイニシアチブとボトムアップによる取組を融合した安全対策の強化が必要。
 - ・ 本日の会合を活かし、一人の命も健康も奪われない安全な作業環境を目指したい。



牧原厚生労働副大臣

- (2) 基調講演 石村和彦 旭硝子(株)代表取締役会長 「テーマ：安全なくして生産なし」
 - ・ 各階層の管理者が自らの安全衛生に対する考え方を明確にすることが必要。経営トップの意識は、重篤災害の発生リスクを「下げる」、安全衛生に係る意識を「上げる」。
 - ・ 人の管理・注意力に頼る安全対策には限界があるため、1990年代より、国際規格に基づく機械安全を導入。生産性及び品質向上と両立させた。
 - ・ 機械安全の専門知識に関する資格取得を推進し、国内外で2,500名超が取得した。失敗事例を学習、安全中核者の育成、リスクアセスメントの水準向上などの面で様々な教育研修を実施している。「人財」の育成と活用によって安全文化を醸成。
 - ・ 経営者の役割は、「安全なくして生産なし」といった不変の価値観を示し、社内の隅々まで浸透させることが重要。



石村会長(旭硝子)

(3) 企業経営者による会談

<メンバー（順不同）>

- | | |
|-------|--------------------------|
| 進藤 孝生 | 日本鉄鋼連盟会長（新日鐵住金株代表取締役社長） |
| 石飛 修 | 日本化学工業協会会長（住友化学株代表取締役会長） |
| 鈴木 邦夫 | 日本製紙連合会副会長（三菱製紙株代表取締役社長） |
| 石村 和彦 | 旭硝子（株）代表取締役会長 |
| 八牧 暢行 | 中央労働災害防止協会理事長 |
| 向殿 政男 | 明治大学名誉教授（司会） |

<主なご発言>

① 基調講演を受けて

- ・ 経産省・厚労省・中災防の参画の下、業界トップが集まって意見交換することは画期的な取組。製造業における労働災害を如何に減らすか、従業員の安全を如何に守るか、人間を大事にするといった点に結びつけたい。【向殿先生】
- ・ 我々が日頃感じていることと全く同じ状況であることが確認できた。安全は、同じことを何度も言い続けるが大切ということに強く共感した。【進藤会長】
- ・ 海外の事業所での安全対策は、意識や文化が全く異なるので、意識改革に苦労した。専門用語を現地語に通訳することも大変だった。【石村会長】



会談風景

② テーマ1；製造現場における環境変化

- ・ 51才以上のベテラン層の比率が減少し、30才以下の若年層の比率が増加するなか、経験年数10年未満の被災が半数以上を占めている。労働者の属性変化、現場対応力の低下などでトラブル対応、現場指導、実務ノウハウの継承などの問題がより顕著になっている。【進藤会長】
- ・ 人の面では世代交代や作業の階層化、設備の面では高経年化や高度化といった環境の変化により、現場の危険ポテンシャルは増大している。これらの変化に対する管理強化、管理項目の増加によって、繁忙感が高まり、「抜け」が生じることを危惧している。【石飛会長】
- ・ 年代別人員構成が5年前に比較しても大きく変化しており、技術・技能の継承が困難な状況に直面しつつある。設備の修繕や更新は頻繁に行われており、工事施工は外注することが多い中、外注業者によるアウトソーシングが増加しているため、下請けや孫請けといった発注形態の増加に起因する災害が増加傾向にある。【鈴木副会長】



進藤会長、石飛会長、鈴木副会長



八牧理事長(右)



向殿先生(司会)

③ テーマ2；経営理念と安全対策

- ・ 安全・環境・防災は全てに優先する旨を社の基本規程に明記している。リーダーシップを発揮するため、安全基本方針や社長メッセージの発信、経営層参加の安全推進委員会の開催、経営層を含む労使合同の現場パトロールの実施、月一の「安全の日」の設定などを行うとともに、ボトムアップ活動として、小集団活動発表大会などを行っている。【進藤会長】
- ・ 化学業界では、開発から製造・物流・使用・消費・廃棄の全ての過程に対し、環境・健康・安全の確保と成果を公表して社会と対話するレスポンシブル・ケアを共通理念として活動している。企業は協力会社を含めて、人・設備・管理の面で安全基盤の確立のための様々な活動を行っており、化学業界としても産業安全塾・シンポジウム・

研修など開催や、保安事故防止ガイドライン・DVD教材・ベストプラクティス集などを策定し、活用している。【石飛会長】

- 日本製紙連合会としては、職場・工程ごとに特有の危険源の洗い出しを行って共有化するという活動を新たに展開している。臨時入構業者への緊急対策も行っている。安全大会の開催、委員会活動、労組への働きかけ、講演などの団体活動も行っている。【鈴木副会長】

(4) 全体とりまとめ

- 会談の成果を踏まえ、会員企業が、①経営層のリーダーシップ発揮、②安全への投資の促進、③協力会社を含めた人材育成や安全教育の拡充、④課題の抽出、検討及び業界内外との共有といった4つの経営理念に従って安全対策を強化すべく取り組む旨の「声明文」を発表。今後、10月開催の「第2回官民協議会」で10団体による検討の後、11月開催の「全国産業安全衛生大会」で普及を図ることとした。

(5) 閉会挨拶 世耕弘成 経済産業大臣

- 我が国の製造業の強みである「現場力」は、安全な職場環境の確保なくして成り立たない。
- 自身の企業経験で、「分かりやすく安全な仕事のやり方が、実は一番生産性が高くてコストが低い」という言葉に非常に感銘を受けた。
- 各企業は、徹底的に事故を分析し、改善点・課題を特定し、再発防止はもちろんのこと、得られた成果をこの協議会の場を通じて広く共有して頂きたい。
- 安全対策推進は経営者の参画が極めて重要である。本日の会談では、各界を代表する経営者自身が行動を通じて本気であることを示されており、その信念に改めて敬意を表したい。
- 今日の議論が大企業から中小企業まで、そして企業経営者から現場の従業員の方々に至るまで、全ての関係者にあまねく広まって、安全対策が一層進むことを祈念。



世耕経済産業大臣

(6) 閉会

- 有意義な議論に感謝。声明文は、来月の協議会で参加10団体の皆さんと一緒に議論を深めたい。また、11月開催の「全国産業安全衛生大会」では、協議会の検討状況の報告などを行うので、多数の方々に参加をお願いしたい。(製造業安全対策官民協議会 寺畑会長)



寺畑会長